

氏名	入 江 伸		
学 位 の 種 類	医 学 博 士		
学 位 授 与 番 号	博 乙 第 2236 号		
学 位 授 与 の 日 付	平成 3 年 3 月 28 日		
学 位 授 与 の 要 件	博士の学位論文提出者（学位規則第 5 条第 2 項該当）		
学 位 論 文 題 目	特発性男子不妊症における精細管内 androgen 濃度の研究		
論 文 審 査 委 員	教授 関場 香	教授 産賀敏彦	教授 佐伯清美

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

特発性男子不妊症患者 100 例において精巣内，精細管内 testosterone (T) および 5α -dihydrotestosterone (DHT) 濃度を測定し検討を加えた。

精細管内においては，T が DHT よりも優位であり，精子形成に最も重要な役割を果たす androgen は T と考えられた。

血中 LH, FSH, T 濃度および精細管壁の厚さと精細管内 T, DHT 濃度との間には有意の相関は認められなかった。このことより血中ホルモンは，精細管内 androgen の main regulator ではないことが示唆された。

精細管内 T は精巣内 T と $r = 0.49$ とある程度の相関を認めたが，精細管内 DHT と精巣内 DHT は相関性は認められなかった。以上より，精細管内 T 濃度は種々の factor により regulate されているが，精巣内 T はその main regulator の一つであると考えられた。

論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

本研究は突発性男子不妊症における精子形成とホルモンとの関係について検討したものであり精子形成に最も重要な役割を果たす Androgen は Testosterone であり，しかも精管内 Testosterone 濃度は主に精巣内の Testosterone によって調節されているとの結論を得ており，突発性男子不妊症の病態解明に貴重な価値ある業績と認める。

よって，本研究は医学博士の学位を得る資格があると認める。